



## 生きる ～想いをつなぐ～

副校長 杉山貞文

2024年1月1日の能登半島地震から1か月がたちました。被災された地域にご親族がいらっしゃる方、その地域にゆかりのある方におかれましては、大変なご心配とご苦労をされていることと思います。心よりお見舞い申し上げます。

大きな災害が起こるたび、また東日本大震災が起こった3月11日を迎えるたび、思い出すことがあります。気仙沼市立階上中学校卒業生代表生徒の卒業式での答辞です。大地震発生から12日目の2011年3月22日、地域住民の避難所となっている中学校の体育館で、多くの被災者に見守られながら、その卒業式は行われました。未曾有（みぞう）の大震災を前に無力感にさいなまれながらも、深い悲しみを乗り越え、立ち上がろうとする決意を力強く語る姿は、多くの人の心をうち、命の重さや生きることの意味を問いかけているようにも思えました。

「生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。」この心からの思いにあふれた言葉を思い出すたびに、13年の年月を経た今でも、日々の自分自身を振り返り背筋が正される思いになると同時に、生きる力と勇気をもたらすことができます。

「生きるとは…」日常の学校生活で、子どもも私たち大人も、だれもがこの「答えのない問い」に向き合い、『自分にとっての正解』を見出す中で、助け合うこと、生きる力を身に付けることの価値に気づき、多くの学びを積み重ねていきたいと考えています。

けせんぬましりつはしかみちゅうがっこう そつぎょうしき どうじ もんぶかがくしょうはくしょ いちぶばっすい  
 <気仙沼市立階上中学校 2011.3.22卒業式 答辞 (文部科学省白書2010より 一部抜粋)>

…ちょうど10日前の3月12日。春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を57名そろって巣立つはずでした。前日の11日。一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に思いをはせた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに…

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で仲間と共有した時を忘れず宝物として生きていきます。…

### ☆今月の上寺尾短歌☆

人間の力は決して 弱くない 困難の壁 乗り越えるはず  
 「こうすべき」 他人が決める 答えより 一生かけて 答えをつくろう

### ☆児童支援専任 田中からの一言☆

おとし物のめだこま きめい ねが  
 落とし物が目立ちます。細かいものにも記名をお願いします。